

令和5年度第1回栗東市行政改革懇談会議事要約

令和6年2月9日（金）

午前11時15分～11時50分

栗東市危機管理センター3階 大研修室

【出席者】

委員：新川委員（座長）、清水委員（座長代理）、多々良委員、内山委員、平田委員、森野委員、伊勢村委員、稲木委員、内記委員

事務局：副市長、教育長、議会事務局長、危機管理局長、市長公室長、政策推進部長、総務部長、市民部長、健康福祉部長、環境経済部長、建設部長、建設部技監、上下水道事業所長、こども家庭局長、教育部長
関係所属長、政策調整課事務局担当

【欠席者】

委員：武村委員

1. 開会

2. 市民憲章唱和

（省略）

3. 挨拶

（省略）

4. 委員の委嘱

就任：多々良委員、内山委員（任期：令和6年2月9日～令和6年3月31日）

5. 協議事項

（1）傍聴に関する取扱いについて

（省略）

傍聴者数：0人

6. 審議事項

(1) 第八次栗東市行政改革大綱の取組状況等について

《資料説明（事務局）》

（省略）

《質疑応答》

委員

企業版ふるさと納税の「若い世代の出産・子育ての希望をかなえる事業」の詳細を教えてください。また、匿名寄附の事業別の金額内訳を教えてください。

事務局

具体的な事業を定めているわけではない。事業別の金額内訳は、後ほど報告させていただきます。

委員

今後、企業版ふるさと納税をどのように取り組んでいくつもりなのか方向性を教えてください。

事務局

企業版ふるさと納税は、企業から寄附金を頂戴してから補正予算を計上し、議会の議決を経て原則として年度内に執行していくというルールがあり、元々予定していた事業に対して寄附金を充てることはできない仕組みになっている。本市としては、企業の意向をしっかりと汲み取りながら、どのような事業に寄附金を充てるのが一番有効的なのかを十分検討してから予算計上していきたい。また、年度内に事業を実施することが困難な場合には、基金に積み立てることで翌年度以降に執行できよう対応していく。

この場で具体的な事業は申し上げられないが、そういったフローで実現をしていくということをご理解いただきたい。

委員

漫然と寄附を受けるのではなく、用途を明確にしてどんどん活用してほしい。そうすることで市がもっと発展していくのではないかと。総合計画のアンケート結果では、各設問の回答で「わからない」という回答が多いと聞いた。実際に何に使われているのか十分な周知ができていないと思うので発信してほしい。

事務局

ふるさと納税には個人版と企業版があり、特に個人版では市として8つの柱を掲げ

て宣伝等をしているが、今の制度は特産品のカタログショッピングのようになっている傾向があり、本市はそういうところが弱いことから、頂戴する寄附額より流出額が多く、なかなか差が縮まらない現状がある。

企業版も含め、本来のふるさと納税の趣旨である『自分たちのふるさとを応援したい』というところを踏まえると、市がどういう事業をやっているかをしっかりと見せてから寄附を頂戴するような仕組みを、できるだけ早く構築していきたいと考えている。

委員

若い人はスマホを使う人が多いので、DXも活用しながら進めていただきたい。

事務局

DXも含め、しっかりとふるさと納税で成果が出るよう努めていきたい。

なお、先ほどの企業版ふるさと納税を匿名でいただいた内訳について、「地域の活力を生み出す人口確保・定着に向け魅力あるまちをつくる事業」に850万円、「若い世代の出産・子育ての希望をかなえる事業」に1,000万円をいただいた。

委員

企業としても、若い世代や子育て世帯に対しての関心が高いと思うので、ぜひとも寄附を有効活用していただきたい。

座長

市としてふるさと納税の良い仕組みを作ってください、多くの寄附をいただけるよう頑張ってください。

委員

デジタル田園都市総合戦略やDX推進計画の記載があり、具体的な取り組みとしてキャッシュレス決済や公共施設予約システムとあるが、デジタル田園都市総合戦略は、デジタルの力を活用して社会課題の解決を目指す中で新たな仕事や人の流れを作る、或いは出産や子育ての希望を叶えるというものであり、キャッシュレス決済や公共施設予約システムの取り組みでは物足りないように感じる。まだ公表できないのかもしれないが、その他の取り組みについて差し支えない範囲で教えていただきたい。

事務局

本市では、次年度前半期に総合戦略を改訂する予定であり、加えて、行政改革大綱も改定する予定である。総合戦略については、今おっしゃっていただいたように地方創生の流れを汲んでいることから、人口減少対策にデジタル技術を活用した新たな事業展開を図るものであり、行政改革大綱については、行政内部の業務の効率化を図り市民サービスの向上に繋げていくものである。どちらの計画にもデジタル技術を取り入れていく

という流れがあることから、この2つの計画のデジタルに係る部分の実行計画として、DX推進計画を位置付ける予定である。

ご意見いただいたキャッシュレス決済や公共施設予約システムについては、国の交付金を活用する関係上、計画の改訂前から並行して取り組みを進めているものであり、これらの計画の主となる取り組みという意味ではないので、ご理解いただきたい。

座長

各委員から色々と意見を頂戴したところである。

ふるさと納税については、やはり流出超過であることから、メニューをしっかりと組み立てていただき、本市のメリットを打ち出していきたい。栗東市として目指されているところを積極的に出していただくことで、個人版であれ、企業版であれ、効果上がるのではないかとということで意見をいただいたので、これらを踏まえて今後の展開を考えていただきたい。

DXについても意見を頂戴したところである。今後に向けては、DXを通じてこれからの行政基盤を再度構築し直していくという観点が大きいと思う。単に市民窓口等のDX化だけではなく、業務そのもののDX化も併せて進めることで、行政改革の全体としての成果を上げていけるよう進めていただきたい。

その他、特に意見等なければ以上にしたいと思うが、各委員よろしいか。

—各委員了承—

座長

本案件についての質疑は以上とする。

協同、行政サービス、人材・組織力、財源確保の各視点について、それぞれ目標は高く難しいというところもあると思うが、これらの目標がより多く達成できるよう一層ご尽力いただくようお願いする。

7. その他

本日出し切れていない意見等あれば、ご意見シートにご記入いただき、ファックスもしくはメールにて提出をお願いする。

8. 閉会

副市長

行革については終わりが無いものである。都度都度、しっかりと取り組みを進めつつ、DX等の新しい考え方も積極的に取り入れながら的確に進めてまいりたい。

以 上